

患者さんと中央市民病院をつなぐ情報誌

SHIOKAZE Magazine

し / お / か / ぜ / 通 / 信

Vol.
61

2025
AUTUMN



P1-4 看護師インタビュー

P5 ～当院で出産された方へ心を込めて～

P6 「立ち会い教室」を再開しました

P7 無痛分娩提供体制について

P8 「グリーフケア (grief care)」を大切にしています

P9 「起立性調節障害・睡眠障害外来」をはじめました

P10 最新の PET/CT 装置が導入されました

P11 ご寄付のお願い

安心を支えるベッドサイドケア

患者さんの笑顔のために



看護師長 Eさん



看護師 Tさん

5階南病棟では、在宅支援が必要な高齢者や化学療法を受ける患者さん、

手術で入院される方に安心・安全な治療環境を提供しています。

今回はその中心で働く看護師に、日々の業務や看護への思いについて聞きました。

Q 看護師になろうと思ったきっかけは何ですか？

Eさん 幼い頃にテレビで見た看護師に憧れを抱き、幼稚園の卒園アルバムにも「将来は看護師さんになりたい」と書いていました。途中色々な職業にあこがれはあったのですが、高校生になり進路を考えていた時に、ふと幼少期の夢を思い出したんです。当時は介護保険制度が創設され、社会全体が医療や介護、福祉に注目していた時期。ニュースなどで情報に触れる機会も増え、医療系に進学する友人が多かったこともあり、自然と看護師の道に進もうと思いました。



Tさん 学生時代に入院し、病室で初めて看護師の仕事を目にしました。手術を受けることになり、不安もありましたが、困った時にナースコールを押すとすぐに駆けつけてくれた看護師さんに心が救われ、とても安心できたことを今でも覚えています。いつも優しく声をかけ、温かく接してくれる姿は、私に看護の世界へ興味を抱かせるきっかけになりました。

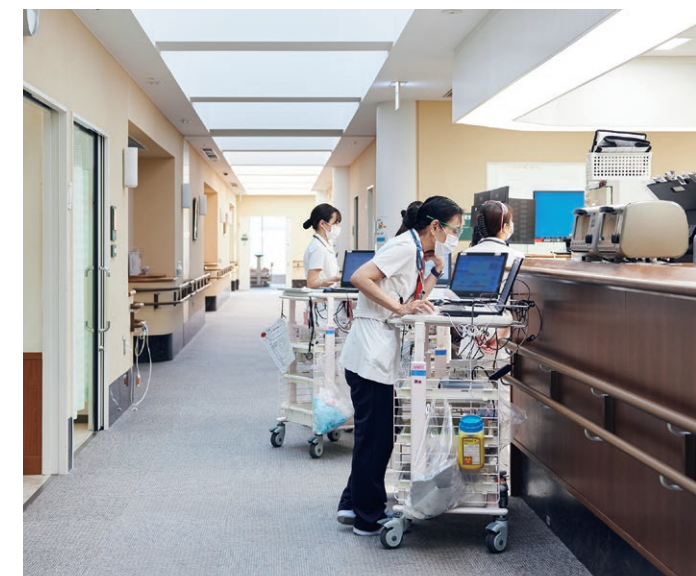
Q 5階南病棟での主な役割を教えてください

Tさん ベッドサイドで患者さんの健康状態や病状の変化を観察し、痛みや不安の声に寄り添います。言葉にできない方も表情や仕草から思いや状態をくみ取り、安心につなげています。変化や異常があれば、すぐに先輩看護師や医師に相談し、少しでも安楽に過ごせるようケアを行います。また、多職種でカンファレンスを行い、患者さんの情報をチームで共有。在宅支援や退院調整については患者総合支援部と連携し、ご家族との情報交換も大切にしながら、より良い療養生活を支えています。

Q やりがいを感じる時や大変だと思うことはありますか？

Eさん 退院時の満足度アンケートで患者さんやご家族からの高い評価が書かれていたり、看護師の名前を挙げて感謝の言葉が綴られていたり、「ここに入院してよかった」と言ってもらえると励みになります。一方で改善が必要な内容が書かれているときは、主任や主任補佐と話し合い改善できるように努めています。

Tさん さまざまな疾患を抱える方も多く、適切なケアができるよう日々学ぶのは大変ですが、苦痛を訴える患者さんの表情が和らいだ時はやりがいを感じます。





Q 患者さんと接する中で、 どのようなことを心がけていますか？

Tさん どんな時も患者さんの立場に立って考えることを大事にしています。看護師と患者という関係の前に、人対人の関係として配慮と敬意を忘れず接するようにしています。仕事やご家族のことを話してくださる患者さんも多く、何気ない会話から背景が見え、自然と距離が縮まる瞬間はとても嬉しく思います。

Eさん 以前は「大丈夫ですか」「何かあれば言ってください」と患者さんやご家族に伝えていたのですが、「そう言われても、いつ、どのような場面で看護師を頼ればいいのかわからない」と険しい顔をされたことがありました。こうした経験から、入院初日にあいさつにうかがった際にはナースコールの場所を説明し、困りごとがあったときは近くの看護師にすぐ声をかけてほしいことや、ナースコールを押しても看護師が駆けつけられない場合の対処など、できるだけ具体的なシーンを挙げて丁寧に伝えるよう心がけています。

Q 成長を感じた出来事がありますか？

Tさん 配属されて1年目は知識や経験の不足から1人でできないことも多く先輩に頼りきりになってしまうことが多かったです。その頃と比較すると今は自立してできることも増え、自分自身が不安そうな表情をすることが減ったことから患者さんが安心してくださることが増えました。今年からは新人フォローを担当することも増え、改めて自分のスキルを学び直し、最新の知識や技術を教えられるよう責任を持って取り組んでいます。



Eさん 昔は特にスタッフ育成に関して、すぐに結果を求めてしまうことがありました。けれども看護師長を務める中で、待つことの重要性や先を見据えて指導することの大切さを学びました。人によって成長の度合いや理解のスピードは違うものです。時間をかけて長所を伸ばし、不得手な部分をどのように活かすかを考えられるようになったことは、色んな経験を通して私自身の成長だと実感しています。「個々が役割を果たし、多職種と協働しながらコミュニケーションを大切にすること」をモットーに、スタッフがより成長できる職場づくりを行うことが私の役割だと考えています。

Q どのような看護師になりたいですか？

Tさん 看護師になって4年目を迎え、任される業務が少しずつ増えてきました。患者さんのためになるケアを行うことができているか振り返りの日々です。まだまだ毎日が勉強。これからも積極的に学びを重ね、患者さん一人ひとりの目標や希望に寄り添い、その実現を支えられる看護師を目指していきたいです。



Eさん 患者さんやご家族はもちろん、スタッフからも安心して信頼される看護師長になりたいと思っています。部署のあるべき姿をスタッフに伝えるためには、自分の思いや考えをきちんと言葉にして伝えることが不可欠だと、先輩師長から教えられました。5階南病棟は、新型コロナ感染拡大の為、3年間閉棟していた病棟が、新体制で2022年2月にオープンした病棟です。新型コロナウイルス（臨時病棟）を経験し、共に苦難を乗り越えた結束力が強い部署です。フットワークの軽い若手に加え、専門性の高い看護師も多く、新しい取り組みにも臆せず挑戦してくれる姿勢を頼もしく感じています。今後も安心・安全な看護を提供できるようチーム力を高めていきます。



看護師を目指す方へ
メッセージをお願いします



大変な仕事も多いですが、患者さんやご家族との関わり、多職種と協力して業務を進める中で、確実に成長を実感することができます。できる仕事や役割が増える喜び、患者さんの希望をかなえられたり役に立てたと感じる瞬間、そして何より「ありがとう」の言葉ががんばる力になります。責任は重い反面やりがいも大きい、仕事だと思います。

看護師の仕事には厳しい一面もあり、実際に働いてみると、自分が思い描いていた理想像とは少し違うと感じる人もいるかもしれませんが、でも、努力した分は時間がかかっても必ず実を結びます。患者さんからの言葉や経過の変化、先輩や上司からの評価など、何かしら励みになる形となって返ってくるはずですよ。夢をかなえるための道のりは大変だと思いますが、ぜひがんばってください。

当院で出産された方へ心を込めて

妊娠を知った時、どこで出産するか皆さん考えられると思います。それも妊娠した時の楽しみの一つでもあります。その選択肢は、病院の評判やおいしい料理、病院からのプレゼントの内容、安全や安心等選択理由は様々です。当院は最後の砦として、安全や安心を強みに妊婦の方に対応しており、総合周産期母子医療センターとして、合併症をお持ちの方や緊急対応が必要な方、助産制度をご利用の方など、どなたでも安心してご出産いただける環境を提供しています。私たちは、当院を選んで出産して下さった全ての方へ「おめでとう」と心からのお祝いをお届けしたいと考え、ポートピアホテルの料理長が手掛ける「お祝膳」を出産された方へお渡し出来るようになりました。頑張ったお母さんへ心を込めてお渡しさせていただきます。

また、誕生した赤ちゃんにもお祝いをお届けしたいと考え、神戸ブランドである「BeBe」の協賛のもと「スリーパー」を生まれた赤ちゃんにプレゼントしています。タグには当院のロゴも入っておりピンクとブルー、当院オリジナルのイエローの3色の中から好きな色を1着選んでいただきお渡ししています。

これから妊娠され、病院を選ばれる際には、ぜひ当院も候補の一つとしてご検討ください。助産師一同、心よりお待ち申し上げております。



お祝膳



スリーパー



「立ち会い教室」を再開しました

2020年のコロナ禍以降、面会の制限のため、夫立ち会いを自粛していました。しかし、夫の立ち会いを望む声が高まる中、私たちは再開に向けて取り組みを始めました。再開するにあたり、本当に満足のいく夫立ち会いとは何かを助産師で話し合い、ご夫婦で協力し取り組む立ち会い分娩にしたいと「夫立ち会い教室」を開設しました。この教室では、立ち会いのメリットやデメリットを丁寧に説明し、夫のご意向を確認します。また立ち会う時に、奥様へのサポートがしっかりできるように、マッサージの仕方や、どういことをしたらいいかをお伝えし、安心して立ち会っていただけるようサポートします。そして、出産を二人で迎えます。妊娠中にしっかりとご夫婦で話し合う機会を作り、一緒に新しい命を迎える準備をしませんか。助産師一同、満足のいくお産になるよう全力で支援いたします。



Step1 | 動画視聴の案内

- 同意書、バースプランの記入



Step2 | 立ち会い出産教室の予約・参加

- バースプランの調整
- 分娩の流れや過ごし方の説明



Step3 | 立ち会い出産～育児

- 夫婦で立てたバースプランにそった出産

立ち会い出産 までの流れ

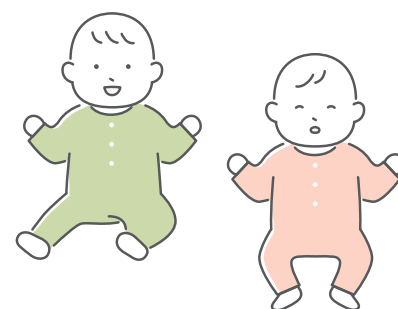


無痛分娩提供体制について

当院では、2018年より母体合併症（心疾患、脳血管疾患等）を医学的適応とした硬膜外無痛分娩を行っております。産婦人科医・麻酔科医・専門各科医師（循環器内科や脳神経外科等）協力のもと安全に十分留意し計画分娩を行ってきました。

無痛分娩に対するニーズが高まっている近年の社会情勢をふまえ、2025年7月1日より医学的適応のない患者さんにも自費で硬膜外無痛分娩を開始しました。また、硬膜外無痛分娩でも経過に問題がなければ立会い出産が可能な体制となります。

対象は、経産婦さん（外国人を含む）もしくは医学的適応とはいえないものの体格などにより麻酔の難易度が高い初産婦さん（日本人のみ）とさせていただきます。今後、より多くの患者さんに対応できるよう体制を整えていく予定です。



妊婦さんと赤ちゃんにとって
より良い出産となるよう、
スタッフ一同尽力して参ります。

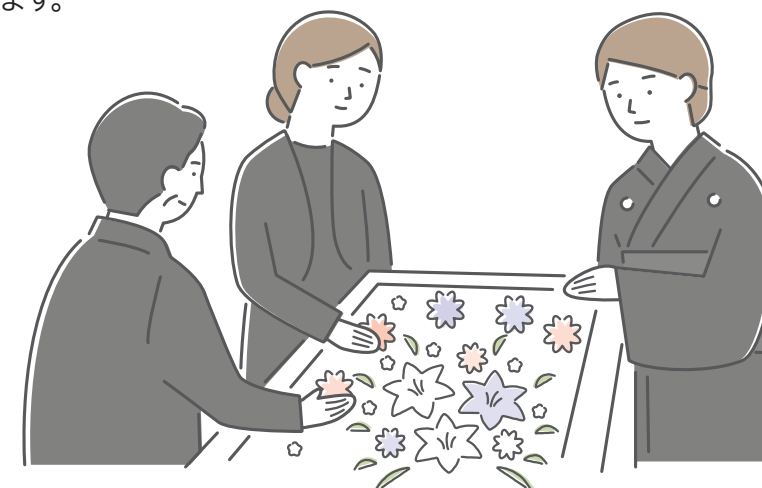
グリーフケア (grief care) を大切にしています

グリーフケアとは、大切な方を亡くされたご遺族の心の痛みや悲しみに寄り添い、少しずつその思いとともに歩んでいくことができるよう支援するケアのことです。死別によって生じる悲嘆の反応は、涙や落ち込みだけではなく、不眠や体調不良、怒りや罪悪感など、さまざまな形で現れることがあります。その反応は一人ひとり異なり、時間をかけてゆっくりと癒されていくものです。

特に、救急救命センターに搬送され、突然死で亡くなった患者家族の悲嘆反応は強くなることが多いと言われています。大切な人を亡くした死別後の悲嘆を抱えながらも、患者家族が自らの力で人生を歩んでいけるよう、我々は家族の声に耳を傾け、必要な方にはサポートを提供していきたいと考えています。

2016年に救急救命センターでグリーフケアチームを立ち上げとともに、遺族ケアの実現を目指して、パンフレットの配布やお電話・お手紙などで、特に悲嘆反応が強いご遺族の方を「グリーフケア神戸 かけはし」という遺族会へ繋ぐ活動を行っています。

グリーフは“治す”ものではなく、“寄り添う”ものです。引き続き、悲しみに向き合う時間が、少しでも穏やかなものとなるよう、私たちは寄り添い続けていきたいと思っています。



「エンバーミング (Embalming)」のご案内も試みています。

※エンバーミングとは、故人の身体を衛生的に保ち、きれいな姿でご家族やご友人とのお別れの時間を過ごしていただけるようにする処置のことです。体内の衛生処置やお化粧、衣服の整えなどが行われ、故人としっかりと別れをする時間を確保できるだけでなく、事故やご病気などにより変化のあったお姿を、できるだけ安らかな姿に整えることができます。

「起立性調節障害・睡眠障害外来」をはじめました

朝起きられない、午前中調子が悪い、頭痛や立ちくらみがあるという中高生のお子さんはいませんか？これらは「起立性調節障害」といって、昔から成長期に伴う一過性の症状として知られていました。近年中高生の起立性調節障害に伴う不登校は増加の一途をたどり、ネットやゲーム、スマホの普及に伴い昼夜逆転にいたる「睡眠障害」を引き起こして、引きこもりにつながるケースが増加しています。特に新型コロナパンデミック後は不登校が増加し、今では中学生の15人に1人が不登校となっています。

起立性調節障害・睡眠障害および不登校の診療においては、その原因に応じた個別性に配慮した対応が必要です。当院では兵庫県立リハビリテーション中央病院で長年この治療に長年取り組んでこられた菊池清先生による、「起立性調節障害・睡眠障害外来」を、6月から毎週金曜日に開始しています。

午前中に起きることができなくなった深刻なケースでは家庭での修正は難しいため、一定期間入院して生活リズムを立て直す起立性調節障害・睡眠障害を対象とした入院治療プログラム開始しています。



菊池清先生

「起立性調節障害・睡眠障害」のご相談は、
小児科外来までお問い合わせください。

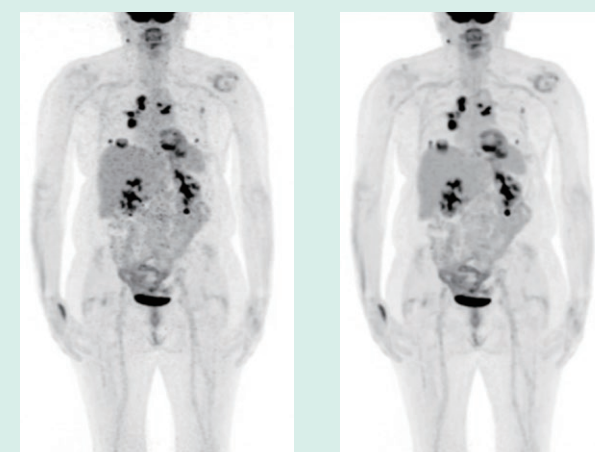
最新のPET/CT装置が導入されました

この度導入されましたPET/CT装置（GE社製Omni Legend32）〔図1〕は、最先端のデジタル技術を搭載した新世代の装置です。PET/CT検査は悪性腫瘍やアルツハイマー型認知症などの早期発見や治療効果の判定等に広く用いられており、より高精度な画像と患者さんの負担軽減が求められています。Omni Legend32は世界初のBGO検出器とシリコン光電子増倍管（半導体）の組み合わせにより従来機種と比べて2倍以上の高感度と高分解能を実現しています。これにより小さな病変をより正確に捉えることができ、診断の質向上に大きく寄与します。

Omni Legend32はDLカメラというAIを搭載したカメラによる自動位置合わせ機能や直感的な操作パネルによる装置の操作性向上、次いでAI技術を活用した画像処理機能「Precision DL（PDL）」により、ノイズの少ない鮮明な画像を短時間で得ることが可能となり〔図2〕、検査を受けられる患者さんの検査時間短縮や被ばく低減が図られます。核医学検査室ではさらに質の高い医療サービスを提供すると共に安心して検査を受けていただけるよう努めてまいります。



〔図1〕
Omni Legend32外観



〔図2〕
Precision DLの効果

▲ PDLなし

▲ PDLあり(Mild)

ご寄付のお願い

当院はこれからも地域の皆様へより良質で安全な医療を提供していきたいと考えています。皆様には寄付という形で当院の運営に共に携わっていただきたいと思いますので、金額の多寡にかかわらずご支援を賜りますようお願い申し上げます。

きはら やすき
神戸市立医療センター中央市民病院 病院長 木原 康樹

ご寄付の流れ

1. ご寄付のお申込み

「寄付申込書」に必要事項をご記入いただき、下記の宛先へご提出ください（郵送・FAX・持参どれでも可）。寄付金の納付先をご連絡させていただきます。また、インターネットでのお申込みも可能です。

「現金」、「銀行振込み」、「クレジットカード」のいずれかで可能です。また、遺贈によるご寄付も承っております。



詳細はこちら▲

2. 寄付受納書のご送付

寄付受納書は、口座への入金を確認後に発行させていただきます。

インターネットからクレジットカード決済をお申込みの場合、クレジットカード会社から当機構への入金を確認した日付以降となり、通常2～3か月を要しますので、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ

経営企画課

TEL: 078-302-4321 / FAX: 078-302-7537
E-mail: kifu@kcho.jp

寄付金で
購入いたしました



ヘパフィルター



外来用の椅子

ご寄付をいただいた皆様

(令和7年4月～令和7年7月)

多くの励ましやご支援をありがとうございました。

ご寄付をいただきました方のお名前を、感謝の気持ちとともにここに掲載させていただきます。

辻 浅夫 様	小川 泰子 様	七條 仁紀 様	七條 文俊 様	西 靖代 様
森岡 弘二 様	林 国勝 様	高谷 多香子 様	小谷 千恵 様	植浦 美子 様
村井 雅敏 様	石原 美智恵 様	青山 悦子 様		

医療法人社団 直太会 母と子の上田病院 様
株式会社慶 代表取締役 森岡 光津子 様
はまなすの会 様
株式会社オレンジホールディングス 様

兼正興業株式会社 代表取締役 兼田 和典 様
株式会社ジャヴァ 代表取締役 細川かおる 様
日清鋼業株式会社 様

(順不同掲載)



地方独立行政法人 神戸市民病院機構
神戸市立医療センター中央市民病院
Kobe City Medical Center General Hospital

〒650-0047 神戸市中央区港島南町2丁目1-1
TEL: 078-302-4321

<http://chuo.kcho.jp>

